

学び合い教え合う学園へ

平成27年度

FD・SD活動報告書

郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部



平成28年5月

学園教育充実研究会

目次

1. 前期授業公開（対象指定型）	4
大学	4
短大	7
2. 全授業公開期間	10
3. 学園教育充実研究会（大会）	11
本学ブランディングの現状 9:10～10:00（建学記念講堂 小ホール）	12
内部ブランディング・ワークショップ 10:10～15:40（62年館・建学記念講堂）	14
閉会式 15:50～16:10（建学記念講堂 小ホール）	17
4. 各種研修会・ワークショップ	18
第5回食物栄養学科セミナー	19
高等学校進路指導部による研修会	20
リクルート進学総研所長による講演会	21
平成27年度 事務局 新卒新任職員に係る研修	22
平成27年度 第1回アドバイザー業務研修会	23
第6回食物栄養学科セミナー	24
マイナンバー制度の概要と事務処理上の対応について	25
平成27年度障がい学生支援研修会	26
IR研修会1ーデータの収集編	27
IR研修会2ー他大学の取り組み例と本学の分析事例の紹介	28
その戦略を意識しよう！ ～アクティブラーニングのしかけ～	29
第7回食物栄養学科セミナー	30
平成27年度 第2回アドバイザー業務研修会	31
5. 事務局職員 外部研修参加記録	32
総務部	32
経理部	33
管財部	33
入学事務・広報部	34
教務部	34
学生生活部	35
就職部	35
図書館	36
高校事務室	36
幼稚園事務室	37
学園教育充実研究会（SD部門）	37
家庭寮	37

FD・SD活動報告書に寄せて

ファカルティ・ディベロップメントという言葉の意義は本当に定着し、何を意味しているかは理解されているとは思いますが、如何でしょうか。文部科学省の中央教育審議会大学分科会では、盛んに英語表記を多用し、先進的な取り組みを推奨しているところですが、其々の取組が本来の目的である学生の教育成果に如何に寄与するかを的確に機能させては居ないようにも思えるのは私ばかりではないようです。FD活動は教員の総体的な教育・研究能力の活性化を促進するための活動であることは申すまでもないことですが、如何にして学生個々の学修成果の向上に寄与するかを基本とすべきものです。往々に学生が主人公であることが忘れがちになってはいないでしょうか。表現を変えれば、スタッフ・ディベロップメントについても同様なことがいえるでしょう。

大学教育には専門的な職能が求められます。学生に対する各種カウンセリンや種々の職能の専門化と技術の高度化に伴う授業支援業務などが求められる反面、一般業務の普遍化など、其々の立ち位置から学生への貢献が求められているのです。

このことは、大学が教育機関として自らの襟を正しつつあるということの顚れともいえましょう。かつて「マスプロ教育」と揶揄された大学の教育は、いま姿を消しつつあります。

一方で、この新語の乱舞という様相には、目眩を覚えるとともに、ある種の懸念も感じます。教育とは産業技術のように、日々刻々と姿を変えるものではないのです。教育の本質は、悠久の昔から、教え手と学び手の心の交流そのものにありまして、これからもそうあるべきです。そのことを見失えば、新たな制度や教育方法も、まさに仏作って魂入れずということになりかねません。

翻って、本学の教育はと問うたとき、自負るわけではありませんが、本学では、こうした新語が巷間をにぎわす以前から、教育の改善活動を組織的に行って参りました。教職員の研修を担う学園教育充実研究会はすでに半世紀近くの歴史をもち、連綿とその活動を次の世代へと受け継いで参りました。

学園教育充実研究会の活動が、FD活動、SD活動とその名を変えても、その本質は、本学の良き伝統の中に位置付けられるものでありましょう。かねてより本学は学生のひとりひとりに寄り添う教育を大事にしてきました。いつの世になっても、私たち教職員は、その心を忘れずに、ひとりひとりの学生のために何が出来るかを模索し、FOR A STUDENTを大切にする使命があるのです。

平成28年4月22日 学園長 関口 修

本年度の FD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会

主任 垣花 真一郎

今年度は、前年度までに導入した制度の改善・定着化を課題とした年だった。特に、「授業の改善」、「大会・研修会の充実」を主要な課題とした。

「授業の改善」に関しては、第一に授業評価アンケートの活用を促進することが課題であった。現状、各学科の授業評価の結果利用のあり方はばらつきが大きい。そこで、本委員会として 4 月に、前年度の PDCA 表から各学科の授業評価利用状況の一覧表を作成し、教授会で配布した。第二に、授業公開の改善である。前期の授業公開は、実施自体は定着してきたものの、授業検討会での意見交換が活発でないという問題があった。そこで、本年度は参観者にコメントカードの提出を求めるなどして、受動的な参加者を制限するようにした。その結果、参加人数は減少したものの、検討会での意見交換は非常に活発になった。

「大会・研修会の充実」に関しては、第一に、夏の大会の改善が課題であった。今年度は、ブランド検討部会との共同開催となった。参加者からは、現状のブランディング活動の問題も指摘されたものの、全体としての満足度は 84%であり、本委員会としての役割は果たせたと考える。第二に、研修会の実施コストの低減である。昨年度以降、研修会は回数、種類ともに急速に拡大したが、数年後には、この状態の維持が問題となるはずである。そこで、本年度は研修ビデオを導入した。しかし、ビデオの利用回数は 1 回に留まり、目標の 2 回に届かなかった。

細かな反省点はあるものの、今年度を通じて、前年度までに導入した諸制度の基盤固めが出来たと思われる。次年度以降もこの基盤の上に着実に教職員の職能開発を進めていきたい。

1. 前期授業公開（対象指定型）

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、対象学科を選定し、授業公開を行っている。昨年度から大学・短大から1学科ずつ担当することとなり、今年度は、大学は食物栄養学科、短大は家政科福祉情報専攻が担当対象学科となった。

大学

実施概要

- 授業担当者 鋤野信子 教授
- 科目名 食品学 I
- 開講期 平成 27 年度前期
- 公開日時 平成 27 年 6 月 29 日（月）IV 時限（14:30～16:00）
- 教室 631 教室
- 対象学生 食物栄養学科 2 年（57 名）

公開授業の概要

1. 公開された授業（本時）のねらい

平成 27 年 4 月 1 日に新たな「食品表示法」が施行されました。「食品表示」に関する講義は、本科目の【第 1 回】～【第 4 回】においてすでに実施しております。しかし、特に、「機能性表示食品」制度については、新たに導入された制度であり、今後、徐々に市場に出回る食品であることが明らかとなっています。また、第 30 回管理栄養士国家試験（平成 28 年 3 月実施予定）からのガイドラインにも掲げられております。このことから、「機能性表示食品」の重要性を考慮し、本テーマについて日常の生活と結びつけて学び、理解することをねらいとしました。

2. 授業内容

(1) 導入（約 10 分）

第 1 回の「消費者庁と食品表示の目的」と第 4 回の「健康増進法による食品表示」の授業内容を確認し、今回のテーマとの関連性について解説しました。

(2) 展開（約 60 分）

①「いわゆる健康食品」について（約 10 分）

健康食品、サプリメント、栄養補助食品、健康補助食品、自然食品などは、法律上の定義がないことを解説しました。

②「保健機能食品」について（約 25 分）

特定保健用食品（個別許可型）と栄養機能食品（規格基準型）は、国が定めた食品制度であることを解説しました。

③新しい「機能性表示食品」制度について（約 25 分）

機能性表示食品制度ができた背景および特徴、機能性表示食品の表示項目、機能性表示食品の安全性の確保などについて解説しました。

(3) まとめ・次週の連絡（約 10 分）

「食品の表示」は、「食品の履歴書・保証書」であり、「食品表示」の情報を正確に読み取ることが安心・安全な食品を選択するために重要であることを強調し、まとめとしました。

3. 工夫した点（参観のポイント）

(1) 事前の準備

①本テーマを第 13 回目（6/29）に実施した理由

「機能性表示食品を販売する事業者は、販売を予定する日の 60 日前までに消費者庁長官に届け出る必要」があり、この制度が本年 4 月 1 日施行されたことを考慮して、商品が市場に出回る時期を見計らって講義することが望ましいと考えました。

②講義資料について

「食品の表示」は複雑な制度のため、学生が積極的にホームページを眺める習慣が必要です。本制度の内容については、消費者庁のホームページに PDF の資料が掲載してあります。授業への予習効果も期待して、学生が資料を各自プリントアウトして授業に臨むよう、5 月の連休明けに指示しました。

③食品サンプルの準備

機能性表示食品は、まだ販売が確認されていないため、各社ホームページに掲載されているものを OHP 呈示用として準備しました。また、機能性表示食品以外については、学生にも現物を持参するように促しました。

(2) 授業の実際

①OHC の使用

OHC は、拡大・縮小できること、複数の資料を重ねて表示できること、食品のパッケージや図鑑を映せることなどから、パワーポイントは使用せず OHC を使用しました。また、学生が持参した食品も一部取り上げて、OHC で示しながら解説しました。

②学生への問いかけ

実生活にむすびつけ、状況に応じて学生に問いかけながら双方向の講義を心がけました。

4. 授業の自評

①今回の講義内容は、4 月から導入された新しい制度であることから、担当者自身がいくつかの研修会に参加して学びましたが、それを学生にいかに関えるかということに、年度当初から悩んできました。この制度に至るまでの背景から伝える必要があるため、「3. 工夫した点」を考慮して講義に臨みましたが、時間が足りなかったこと、準備していた事柄を説明し忘れたこと、講義をしている途中で準備不足に気づいたことなど、思うように展開できなかったことが悔やまれました。

②討論会においては、担当者がパワーポイントを使用しないことに対して、パワーポイントを効果的に使用するための工夫、課題を与えてはどうかなどのご意見やご助言などをいただきましたので、次年度に向けて検討する必要性を痛感いたしました。これに対し、パワーポイントが当たり前となっている近年ですが、本授業で OHC を使用したこと、および使用の方法に関心を示していただけたことは嬉しく思いました。

③本講義のねらいである「日常の生活と授業を結びつけるためには」のために、学生に食品サンプルを持参させたり、講義の時期やタイミングを社会の実情に合わせて実施しましたが、学生の授業に対する

熱意を感じ取るためには、さらに工夫が必要であったと反省させられました。

④参観者からは、討論会とは別に、下記のようなご意見、ご助言等をいただきましたので、真摯に受け止め、今後の授業に反映させていただきたいと考えております。

- i. 授業で使用する資料を教員側で全て準備して配布するより、学生自身が HP の PDF を印刷して持参させる方法は、学生にとって予習を兼ねることができてよい。
- ii. 学生が作業をしたりする場面があまりないので、集中力に欠ける学生が一部見られた。
- iii. 機能性表示食品の制度の目的（規制緩和）について触れたらなおよかった。
- iv. 前回の確認テストも導入してはどうか。
- v. 映した資料を、携帯で撮影する学生がいて驚いた。

5. 公開授業に対する感想

①「公開授業」は、普段の授業をありのまま公開するものと解釈しているため、教授法に留まることなく、教室環境や学生の受講態度も含めて参観していただくことができたことに感謝しております。

②授業は、15 回の中でストーリー性を持って展開しており、また、教授法はテーマによって異なることもあり、必ずしも毎回同じであるとは限りません。現実的には不可能なことです、1 回だけを取り上げて授業を公開するのではなく、15 回の流れの中で授業がどのように進んでいくのかを参観していただくのが理想的だと感じました。

③公開授業直後の検討会は、自分自身を振り返る時間がないため、担当者としては少し時間をおいてからの検討会が望ましいと感じました（参観する側としては、記憶が新しいうちが望ましいと思いますが）。

④本授業を参観していただき、コメントおよび検討会でご意見等を下さいました教職員の皆様に、この場を借りて深謝いたします。



実施概要

- 授業担当者 知野 愛 准教授
- 科目名 家族関係学
- 開講期 平成 27 年度 I 期
- 公開日時 平成 27 年 7 月 24 日 (金) III 時限 (12:50～14:20)
- 教室 832 教室
- 対象学生 大学 人間生活学科 4 年 (2 名)、大学 食物栄養学科 4 年 (2 名)、
短大専攻科 文化学専攻 1 年 (2 名)

公開授業の概要

1. 公開された授業 (本時) のねらい

家族関係学の授業では、ライフコースをたどる形で、出生から婚姻、出産、子育て、育児支援、高齢者、高齢者介護に関するテーマを取り上げている。それぞれのテーマについて、統計調査結果から実態把握、歴史的な考察、諸外国との比較等を織り交ぜて授業を展開している。

本時の授業(第 14 回)では、「高齢者介護と介護保険制度の利用」というテーマで「高齢者介護」に焦点をあてる。授業構成や目的・内容は、パワーポイント作成教材と、その中から抜粋した手元資料を配布し説明する。

授業のねらいは、三世代世帯の減少の実態を把握し、「高齢化社会」「高齢社会」の定義・開始年などを学び、高齢者の生活史をたどり、介護保険制度の成立とそれに伴う家族の変化を把握し、施行後 15 年の現在の介護事例を基に、各自が問題点を思考し意見を発表することができる、ということを目指とする。

2. 授業内容

1. 課題レポートの発表 (「三世代世帯」「三世代同居」について)(受講者 6 名全員)
 - (1) 各自が調べた内容を発表する。(10 分間)
 - (2) 資料「三世代世帯」「世帯」の定義説明、割合減少の統計資料。(5 分間)
2. 「高齢者介護と介護保険制度の利用」パワーポイント教材の映写
 - (1) 配布資料(一部書き込み用空欄つき)説明。(20 分間)
 - (2) 用語の定義確認、統計資料 (家族形態の変化) について、受講者が意見や感想を発表。(5 分間)
 - (3) 配布資料に書き込みをさせながら最後まで説明する。(10 分間)
 - (4) 資料「家族と高齢者を取りまく生活史(1970 年代～介護保険制度が出来るまで)」 (15 分間)
3. 介護保険制度を利用した高齢者の暮らし～事例を基に～(10 分間)
(資料提示装置使用)
 - (1) 事例紹介(事例 1) 90 代の J さんと近所に住む息子夫婦
(事例 2) 80 代の K さんと遠距離介護の息子
 - (2) 受講者の意見発表。各自が、自分の家族や身の回りの事例と比較して考え、介護保険制度の利用や高齢者介護に関する問題点等について意見発表をする。(10 分間)
4. 授業のまとめ(5 分間)
課題レポートの提出

【学生の様子】

履修者 6 名は、これまでの授業の中で様々な意見発表を実施しているため、お互いを信頼して堂々と意見を述べる態度が見られた。また、授業中に教材の表記の間違いを指摘し、受講者同士で正解を話合うなどの積極的な態度が見られた。意見を述べる際には、自分自身の家族の介護経験や、近所の人々の様子などを例に挙げながら、筋道をたてて論理的に発言する姿が見られた。

【授業成果】

この授業の前半 8 回目までは、お互いの意見発表は必要最小限にとどめる消極的な態度が多く見られたが、後半になるに従って、積極的な発表態度が見られるようになり、授業終了後に質問をする受講生の数が増え、学習意欲の高まりを感じた。お互いの発言やレポート発表に刺激を受けて、「自分で調べたい」「さらに詳しく家族の変化を知りたい」と思うようになった、という意見を聞くことができた。

3. 工夫した点（参観のポイント）

この授業では、次のキーワードを事前に調べさせ発表させる課題レポートを 5 回実施している。目的は、学生の授業への主体的参加を促すためである。

レポート作成の条件は、図書館で本を探すことを基本として、インターネット利用の場合はウィキペディア等のコピーは禁止し、独自の視点で調べ引用文献・出典を必ず記入すること。分量はレポート用紙 A4 版 1 枚を目安とする。

結果として、授業の導入部分で各自が発表することにより適度な緊張感が生まれ、お互いに刺激し合い、授業テーマを身近な問題として捉え、意見交換が活発になった。

この授業では、受講者が主体的態度で家族を取り巻く問題を考え、その結果思ったことや意見を筋道を立てて発表できることを目標としているため、そのような受講生の態度が参観のポイントになると思われる。

4. 授業の自評

本時の授業では、①課題レポートの各自発表、②授業内容の解説(パワーポイント教材、資料配布)、時代背景説明(高齢者生活史)、③高齢者介護事例の紹介、という 3 部構成で授業を計画した。

まず①の受講者 6 名による課題レポートの発表は、予定通り全員が発表できた。②の説明が予定より早いペースになり、途中の「3 世代世帯」の説明を①で扱ったことから省略したため、その分、時間が余ってしまった。③では、時間制限を意識し 2 つの事例だけ紹介したが、実際は時間的に余裕があり、事例紹介不足を感じた。しかし、その分、時間をかけて受講生の意見発表を聞くことが出来た。

本授業は、一方的な知識の伝達にならないように、学生が主体的に学習することを意識し、出来るだけ意見を発表させる機会を多く設けている。また、前もって課題レポートを課して主体的に授業に臨ませるという点は少しずつ改善している。受講者は 6 名と少ない人数であるが、4 年生と専攻科 1 年生であり、堂々と自分の意見を述べお互いに刺激を受けながら緊張感をもって授業に取り組むことができた。お互いに学び合う姿勢は、授業の回を重ねるごとに増えたように思われる。

一方、反省点としては、内容的にもう少し掘り下げ、事例を豊富に紹介し、介護保険制度利用により改善した点と、現在直面している問題点を具体的に理解できるようにすべきだった。事例を拾い出すことは容易ではないが、可能な限り資料調査や聞き取り調査を実施し、身近な問題として、受講者の学習意欲を高めるような授業教材準備をすべきだと思った。

上記の反省から、授業案を練り直し、資料収集と教材作成に取り組み、学生の主体的な学びを促すための方策について考え続けたいと思う。

5. 公開授業に対する感想

この度の公開授業では、授業内容や教材作り、授業の展開方法、時間配分、AO 機器・提示装置の準備等、授業を行うために必要な一連の作業を、客観的に丁寧に見直す機会となりました。

また、ご出席の先生方からご意見を書いていただき、拙い授業であったにもかかわらず、良い点を探し出して励ましていただいたり、具体的なアドバイスをいただいたりするなど、大変有難い機会となりました。

検討会のテーマは「授業の予習を促すための工夫について」でしたが、日頃ご意見を伺うことのできない先生方から、体験談やご意見を伺うことが出来、授業を考える上でのヒントを与えていただきました。今後の授業案作りに生かしていきたいと思っております。

また、学園教育充実研究会の先生方には、準備等で大変お世話になりました。公開授業がやり易い様に、時期や教室の設定など様々な点で配慮して下さり、無事に公開授業・検討会を終了できましたことに対して大変感謝しております。



2 全授業公開期間

前期の授業公開が、公開者を限定して授業検討会で授業に対する認識を深めていくのに対し、後期の授業公開では、全員が授業を公開する。また、職員も授業の参観を受け入れるのも大きな特徴である。

I. 背景と目的

- (1) 授業力の向上が必要な教員の研修機会を提供する
- (2) 全教員の授業力のさらなる向上
- (3) 「学び合い、教え合う学園へ」の相互扶助の精神によるFD・SD活動の実現

II. 公開方法

■ 公開時期

後期：11月4～5週の2週間（11/16～27）。一般的には第10回、11回の授業。

■ 公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② ①参観者から事前の連絡が欲しい場合、②注意事項がある場合、③（特別な理由により）非公開の場合、はその旨をグループウェアのスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の1週間前迄に行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を充実研に提出する。

■ 参観について

- ① 教員・職員ともに、期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき、研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無（回数）は提出された参観者名簿より、充実研が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2時限連続の授業等においては、1時限分のみでも可とする。

III. 参観回数

- ① 教員 大学26回（21人）・短大25回（18人）
- ② 職員 5回（5人）



3. 学園教育充実研究会（大会）

学園教育充実研究会（大会）は、昭和 44 年（1969 年）より、学園の教育の充実を図ることを目的として実施されている教員・職員の研修大会である。なお、本委員会の名前も、この大会の名前に由来している。平成 27 年度は、「郡山女子大学ブランドの構築に向けて」をテーマに掲げ、教職員が主体的に、自らの研鑽をつめるような多様な企画を行った。

■ 実施日程

平成 27 年 8 月 28 日（金）8:50～16:10

■ 会場

本学園

■ 参加者

大学教員 38 人、短大教員 47 人、事務局職員（高校事務局を含む）50 人、計 135 人。

平成 27 年度 学園教育充実研究会（夏の大会）プログラム

企 画		時 間	内 容
開会式		8:50～ 9:10	学園長挨拶・学園教育充実研究会趣旨説明
本学ブランディングの現状		9:10～10:00	ブランディング検討部会による講演
内部ブランディング・ワークショップ	ワールドカフェ	10:10～12:10	グループディスカッション
	ポスター作成	13:00～14:30	施策案をポスターにまとめる
	ポスター発表	14:40～15:40	ポスターを掲示し発表する
閉会式		15:50～16:10	講評と表彰・学園教育充実研究会主任挨拶



影山副学長による開会の挨拶



垣花学園教育充実研究会主任挨拶

本セッションは、本学のブランド構築活動に関する共通認識を形成することを目的とした。そのために、大学教育改革検討委員会の下部組織である「ブランディング・ワーキンググループ」の委員にご登壇いただき、お話を伺った。

本学ブランディングのこれまでの取り組み

司会 磯部 哲夫 (学園教育充実研究会)

話者 山口 猛 (大学教育改革検討委員会ブランディング WG)

小松 太志 (大学教育改革検討委員会ブランディング WG)

“自分らしさを大切にしてくれる人との深いつながりの中で、
女性として社会で活躍し続けられるスキルと人生の指針を与えてくれる大学”

昨年度の第 50 回学園教育充実研究会「卒業生からの手紙」ワークを通して、上記のコンセプトが本学のブランド価値 (学校の特色・価値) をあらわす言葉として抽出された。現在、コンセプトに基づいた広報ツールが作成され、学生募集・広報活動に展開されているところである。

高校生から選ばれる大学・短大となるブランド価値の構築のためには、わたしたち教職員が建学の精神に基づいた教育理念・教育目標、および大学を取り巻く社会環境・需要の変化について理解し、教育サービス・学生サービスのあらゆる場面においてその価値を高め続けようとする意識・行動が欠かせない。本発表では、これまでの本学のブランディング活動を振り返り、教職員全体でより魅力ある郡山女子大学ブランドの構築に向けて邁進するための一歩としたい。

○実施内容

1. 本学ブランディングのこれまでの取り組み

- ・コンセプトワードについて
- ・スローガンとブランドアイコンについて
- ・「めばえ」ロゴとブランドアイコン

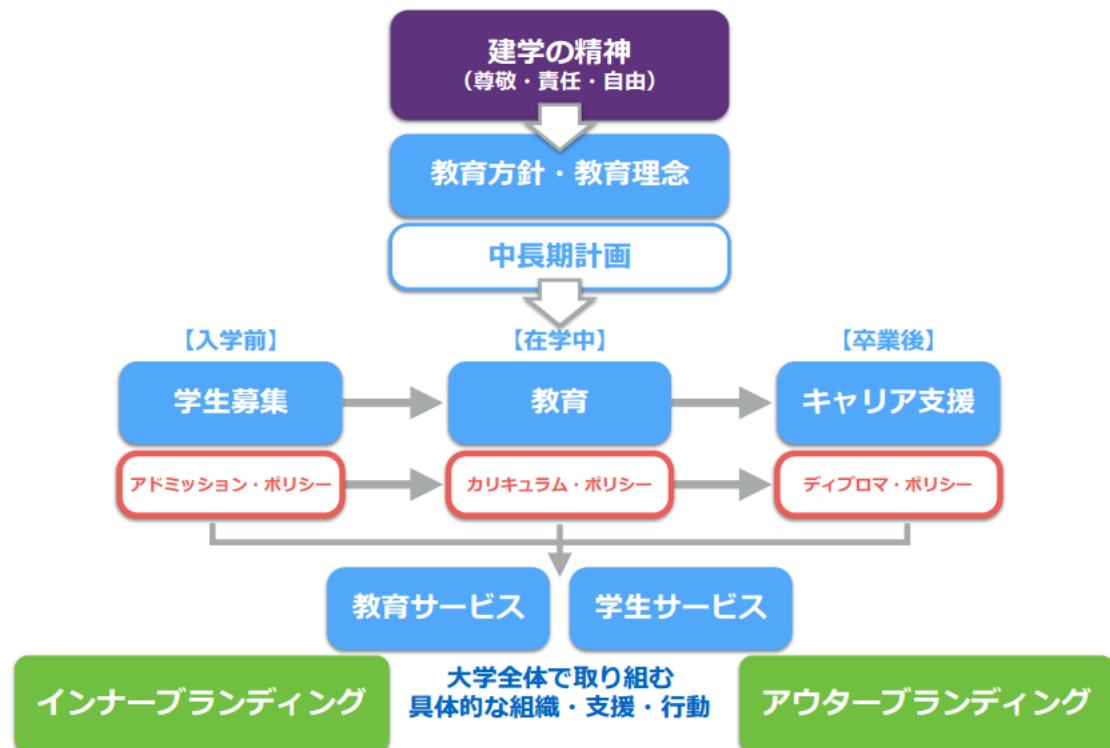
2. 本日のブランディングワークの目的

- ・ブランドはどうあるべきなのか
- ・ブランドのあり方
- ・ブランドコンセプトに基づいた活動から

3. ブランドに関する学内意識調査結果報告

- ・ブランド価値の意義
- ・ブランド価値の共通認識
- ・現在のブランド価値の評価

ブランドはどうあるべきなのか



上図：「本日のブランディングワークの目的」より抜粋



小松ブランディング WG リーダー



山口ブランディング WG 委員

内部ブランディング・ワークショップは、前セクションで解説されたブランドコンセプトをより確かなものにするにはどのような施策が必要かを教職員同士で話し合い企画を考えるものである。

1. ワールドカフェ 10:10~12:10 (マリールーム/ラーコモⅡ/623 教室)

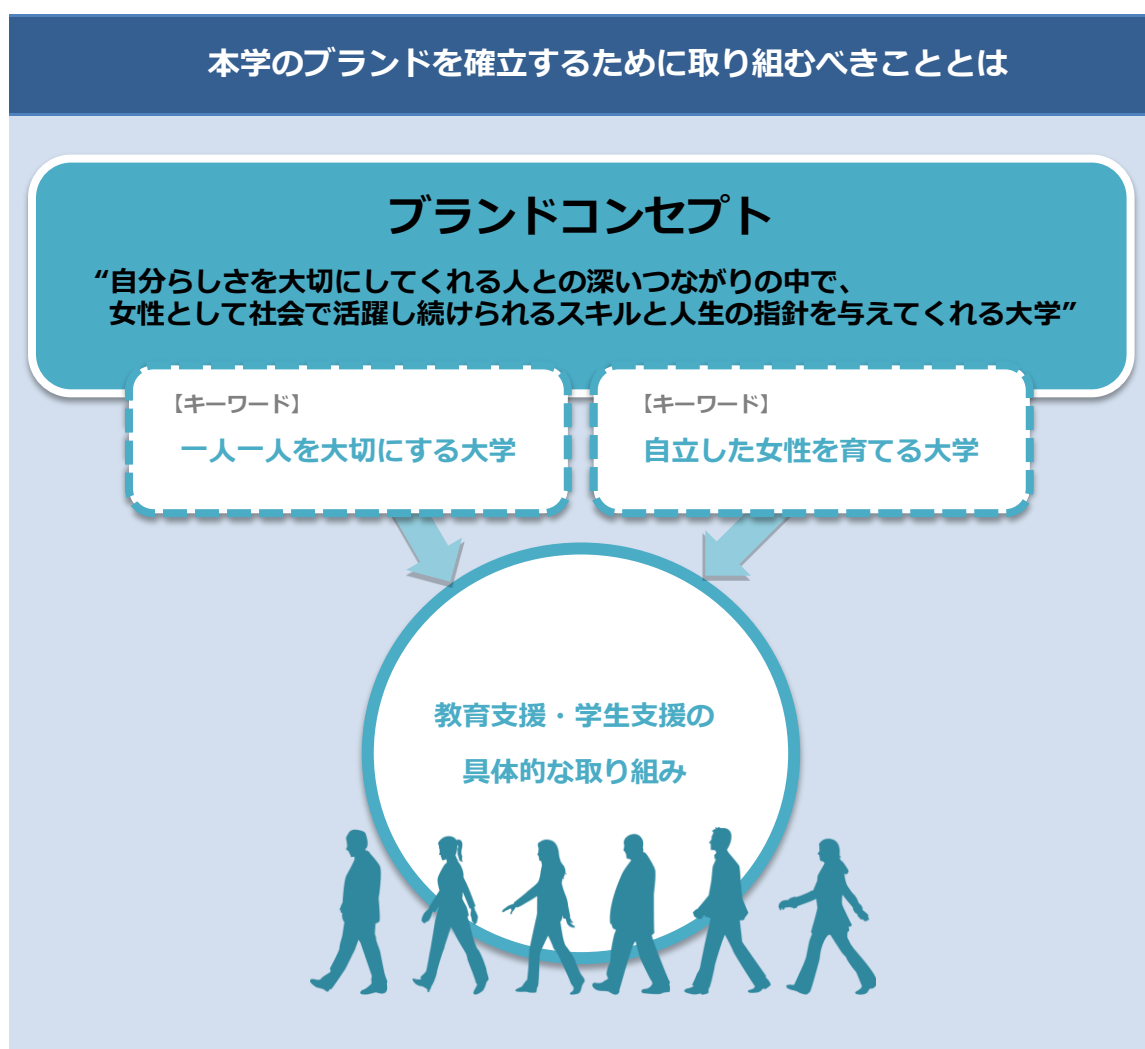
ファシリテーター

マリールーム：関口 晋 (ブランディング WG)

ラーニングコモンズⅡ：松田理香・仲田佐和子 (ブランディング WG)

623 教室：山口 猛 (ブランディング WG)

ワールドカフェでは、グループに別れて、領域別にディスカッションを行う。ディスカッションのテーマは共通で「本学のブランドを確立するために取り組むべきこととは」であった。



協議領域

領 域	該当する内容の例	場 所
1. 行事	もみじ会、OC…etc.	マリールーム
2. アドバイザー・集会	学生指導、集会実施内容…etc.	マリールーム
3. 学生生活支援	窓口対応、奨学金、家庭寮…etc.	マリールーム
4. 就職支援	キャリアデザイン、就職率…etc.	623 教室
5. カリキュラム	共通基礎科目、専門科目…etc.	623 教室
6. 授業・教授法	授業評価、授業の工夫、FD…etc.	ラーニングコモンズⅡ
7. 施設・設備	教室環境、食堂、図書館…etc.	ラーニングコモンズⅡ
8. 卒業生支援	同窓会、再就職支援…etc.	ラーニングコモンズⅡ



ファシリテーターによる説明



アイデア出し／ラーニングコモンズⅡ



アイデア出し／マリールーム



アイデア出し／623 教室

2.ポスター作成 13:00～14:30（マリールーム/ラーコモⅡ/623 教室）

ワールドカフェの結果をもとに、各グループにつき1つの施策案を選び、より具体的な企画案としてポスターにまとめる。



ポスター作成場面



ポスター作成場面

3.ポスター発表 14:40～15:40（建学記念講堂 ホワイエ・展示ロビー）

作成したポスターを掲示してさらにディスカッションを深める。



発表会場（1）



発表会場（2）



対話の様子（1）



対話の様子（2）

閉会式においては、投票の結果選出された上位 3 グループの表彰が行われた。3 グループの発表タイトルは下記の通りである。いずれも、本学の現状の問題を的確にとらえた魅力的なポスターであった。

- 1 位 おしゃれなイングリッシュ・ガーデン大作戦（施設・設備グループ③）
- 2 位 インターンシッププログラムの開発及び実施（就職支援グループ②）
- 3 位 人間力の向上こそが就職支援の第一歩（就職支援グループ①）



上位 3 グループのポスター



表彰の様子

参加者の感想

- ・ 研究会の成果をどのように学生に還元するのかを念頭に今後は活動すべきだと思う。
- ・ 私たち教職員が普段から授業を大切にし、学生との関わりを大切にしていけばブランドが自然と作られられると思う。ブランドに用いられている言葉を教職員みんなで作り上げたようなものになりたい。
- ・ ブランドコンセプトや、新しいロゴマークなどが提示されたが、なぜその言葉やマークになったのかということが教職員に充分浸透していないように思う。
- ・ 馴染みが無い領域について話すという経験は貴重だった。次のポスター作成に盛り込まなければならない「検討事項」がアイデア出しの制約になっている感じを受けた。
- ・ 予め協議領域の希望をとってグループ分けをしたことは良かった。
- ・ 与えられたテーマ（カリキュラム）がブランディングと結び付けるのが難しく感じられた。
- ・ 話し合いの内容を視覚化するための苦労の共有は有益であったと思う。ポスターにまとめることはワールドカフェで話し合ったことが見え大変有意義だった。考えを図式化することは、問題を明確にするのに効果があると思う。
- ・ 発表の後に、グループのメンバーと作成したポスターについて頂いた感想等を教え合いたかった。

4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度には、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行ったことから、研修会の飛躍的な広がりが見られた。本年度は「各種研修会」が本学の制度としてさらに確立した年となった。

	日程	タイトル	主催	参加人数
1	5/20	第 1 回 食物栄養学科セミナー：「住民主体の健康医療政策にしていけるために」	大学食物栄養学科	20
2	7/9	附属高等学校進路指導部長による講演会：「進路指導の流れ等について」	学生募集・入学委員会	41
3	7/23	リクルート進学総研所長による講演会：「これからの高大接続改革について ～今後、大学に求められるものとは～」	大学教育改革検討委員会ブランド WG、学生募集・入学委員会、入学事務広報部 共催	68
4	4～5 月 9/1	平成 27 年度 事務局新新任職員に係る研修(4 月下旬～5 月上旬)とビデオ視聴他：集合研修 (9/1)	学園教育充実研修会 SD 部門	5
5	7/24	第 1 回 アドバイザー業務研修会：「ハラスメント防止に関する規定とハラスメント防止委員会の発足について」	学生生活部、学園教育充実研究会 FD 部門 共催	44
	9/2			69
6	11/18	第 2 回 食物栄養学科セミナー：「ホルモン分泌調節について」	大学食物栄養学科	23
7	12/3	マイナンバー制度の概要と事務処理上の対応について	学園教育充実研究会 SD 部門	51
8	12/4	障がい学生支援研修会：「大学における障害学生支援のあり方～障害者差別解消法施行に向けて必要なこと～」	障がい学生支援委員会	46
9	2/3	IR 研修会_1：「データの収集編」	自己点検評価委員会	54
10	2/8	IR 研修会_2：「他大学の取り組み例と本学の分析事例の紹介」	自己点検評価委員会	58
11	2/18	FD 研修会：「その戦略を意識しよう！アクティブラーニングのしかけ」	学園教育充実研究会 FD 部門	27
12	2/23	第 3 回 食物栄養学科セミナー：「精神科外来における栄養指導効果に影響を与える要因について」	大学食物栄養学科	27
13	3/1	第 2 回 アドバイザー業務研修会「コーチング その技術と実践 -質問力とコミュニケーションスタイル-	学生生活部	30
計				563

第5回食物栄養学科セミナー：「住民主体の健康医療政策にしていくために ～市町村による予防・健康管理の推進と都道府県の役割～」

地域における行政栄養士による健康づくりや栄養・食生活の改善に関する施策については、地域保健法、そして、健康増進法に基づき実施されています。さらに、食育基本法、および高齢者の医療確保に関する法律に基づく特定健康診査・特定保健指導などにより保健対策において健康づくりや栄養・食生活の改善を推進することが一層重要となってきました。さらに、「健康日本21（第2次）」の推進とともに、地域における行政栄養士による栄養・食生活の改善に対する期待が高まってくるものと考えられます。少子高齢化が一層進行する現代社会において、できる限り予防可能な疾患を防ぎ、身体機能や生活機能を維持することは、長寿社会を実現していくためにも、持続可能な社会を実現していくためにも重要です。とくに、「食」は、健康や生活習慣病など身体状況とおかかわりが大きく、地域や環境とのかかわりも深いものです。市町村の行政栄養士として、地域の栄養・食生活改善に取り組んできた実際と、これまでの栄養施策から明らかになった課題について発表させていただきます。

今後、健康づくり及び栄養・食生活改善については、生活習慣病の発症予防と重症化予防の観点から、とくに地域の食事食習慣の特徴を明らかにし分析し、発症予防の効果的な取り組みを地域に普及拡大していくための方向性について先生方からご意見いただければ幸いです。

■ 主催

大学 食物栄養学科

■ 日程

平成27年5月20日(水) 16:10～17:30

■ 会場

臨床栄養学実習室

■ 講師

先崎和子先生（大学食物栄養学科 准教授）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 管理栄養士・栄養士をとりまく法的環境の変化
 - ・健康づくり対策の流れ
 - ・健康日本21（第2次）の概要と栄養施策
- (2) 福島県健康状況
- (3) 地域健康課題把握のためのKDB活用
- (4) 保健事業（健診・保健指導）のPDCAサイクル



高等学校進路指導部による研修会：「附属高等学校の進路指導の状況について」

学生の獲得が喫緊の課題となっている現状を踏まえ、入学事務・広報部と学生募集・入学委員会の共催により、研修会を催す運びとなった。平成 28 年度入学者選抜の学生募集活動に係る教職員の啓発活動として、昨年度に引き続き高等学校進路指導部から講師を招聘し、最新の大学及び短期大学への進学指導状況、高大連携入学者選抜の取り組み等についての講演を本学附属高等学校に依頼した。

下記内容の講演により、本学附属高等学校の高大連携に伴う指導体制の現状と高等学校における進路指導の方向性を把握することができ、今後の学生募集活動の改善に繋がる学内研修会となった。

■ 主催

入学事務・広報部、学生募集・入学委員会

■ 日程

平成 27 年 7 月 9 日(木)16:10～17:40

■ 会場

創学館 521 教室

■ 講師

伊藤 清和先生（郡山女子大学附属高等学校進路指導部長）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 附属高校における 3 年間の進路指導の流れ
 - ・進路状況とその周辺
 - ・3 年間の流れ
- (2) 進路実現に向けた各学年の取り組み
- (3) 高大連携入学者選抜に向けて
 - ・PT の取り組み
 - ・高大連携入学者選抜の取り組み



リクルート進学総研所長による講演会：「これからの高大接続改革について ～今後、大学に求められるものとは～」

平成 25 年からの教育再生実行会議において、これからの大学教育の在り方、高大接続の考え方、これからの時代に求められる学力など、大学入試だけではなく教育制度全体についての見直しが検討されている。今までの受け身の教育から、主体性を持ち社会で自立して活動していくために必要な力を育むため、高大接続改革に向けた全体像（イメージ）や実行プランなど、各大学で実践している入試改革の例を用いてお話しいただいた。そのような政府による教育改革の動向を踏まえて、大学の置かれたポジションをベースにしたブランド戦略の構築のポイントや、マーケティングの戦略案についての話があった。また、今大学に求められているその大学ならではの人材の育成や、現在の課題となっている高校（入口）と社会（出口）のより良い接続についてなど、近年の大学改革の動向を各大学の例を用いて紹介した。

■ 主催

大学教育改革検討委員会ブランドワーキンググループ、学生募集・入学委員会、入学事務・広報部

■ 日程

平成 27 年 7 月 23 日(木)16:10～17:45

■ 会場

創学館 2F 521 教室

■ 講師

小林 浩氏（リクルート進学総研所長・リクルート「カレッジマネジメント」編集長

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 政府の教育改革の動向～教育再生実行会議を受けて～
- (2) 大学のマーケティング戦略～独自性ある大学ブランド戦略とは～
- (3) ユニバーサル化時代の大学改革の方向性とは
～問われるのは学習成果(インプットからアウトカム～)
- (4) 近年の大学改革の動向



平成 27 年度 事務局 新卒新任職員に係る研修

新任者に対するビジネスマナーの研修の必要性は認識されながらもなかなか実施されない状況にあった。今年度、新社会人のビジネスマナー研修に無料配信ビデオ教材を活用し、挨拶の基本等全 5 巻（1 巻あたり 15 分～20 分程度）を視聴させ、確認テストの実施、感想を提出させた。その後、まとめとして集合研修を実施した。

集合研修はSD部門の委員が講師を務め、新任者としての心構え、私立学校に勤務する者として必要な基礎事項について説明を行った。また、新任者同士で意見交換を行うことで他の部署への視野を広める機会にもなった。

■ 主催

学園教育充実研究会 SD 部門

■ 日程

平成 27 年 4 月下旬から 5 月上旬 （ビデオ視聴他）

平成 27 年 9 月 1 日（火） 13 時 55 分～15 時 30 分 （集合研修）

■ 会場

本館 3 階 応接室

■ 講師

学園教育充実研究会 SD 部門 主任 横田英隆 委員 加瀬 洋 [参加者 5 名]

■ 実施内容（抜粋）

(1) 年度初めのビデオ研修内容について

新任者からビデオ視聴を行い、確認テスト、提出された感想の内容を踏まえ、主任の横田氏から新任者としての一般的な心構えに関し説明が行われた。

(2) 学校事務職員の基本的事項に係る簡単な説明

経理部横田氏から補助金について、総務部加瀬氏から私立学校について基本的な解説が行われた。

(3) 意見交換等

社会人として 5 ヶ月が経過（1 人は 26 年度中途採用者につき 9 ヶ月経過）後の感想を述べてもらい、横田氏がアドバイスを行った。



平成 27 年度 第 1 回アドバイザー業務研修会：「ハラスメント防止に関する規定とハラスメント防止委員会の発足について」

平成 27 年 6 月 1 日に本学園において、「学校法人郡山開成学園 ハラスメント防止に関する規定」、「ハラスメント防止委員会規定」、「ハラスメント苦情相談窓口に関する細則」等が施行された。これらは、本学の建学の精神「尊敬」「責任」「自由」のもとに、学生、教職員が相互に個人として尊重され、快適な環境のもとで教育・研究・学習及び労働が保障されることを目的として、ハラスメントの防止、排除及びハラスメントが発生した場合の対応について必要な事項を定めるものである。

そこで、本学のハラスメント防止について、「ハラスメント防止に関する規定」のあらましとハラスメント防止委員会の役割、ハラスメント苦情相談窓口での苦情相談から問題解決までの流れ等について、大学・短大全教職員の理解を得ることを目的として研修会を 2 回開催した。

■ 主催

学生生活部・ハラスメント防止委員会

■ 日程

第 1 回：平成 27 年 7 月 24 日（金） 16：10～17：40 [47 名参加]

第 2 回：平成 27 年 9 月 2 日（水） 10：30～12：00 [70 名参加]

その他/大学生・短大生対象：平成 27 年 9 月 16 日（水） 13：45～14：20

■ 会場

第 1 回・第 2 回/教職員対象：創学館 521 教室 その他/大学・短大学生対象：講堂大ホール

■ 講師

ハラスメント防止委員会委員長：石堂常世 先生 ハラスメント苦情相談窓口相談員：堀 琴美 先生

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 「学校法人郡山開成学園ハラスメント防止に関する規定」とハラスメント防止委員会の発足について
- (2) ハラスメント苦情相談窓口業務について
- (3) 質疑応答
- (4) 関係資料（事前に配信済み）
 - ①ハラスメント苦情相談窓口に関する細則（PDF）
 - ②学校法人郡山開成学園ハラスメント防止に関する規程（PDF）
 - ③学校法人郡山開成学園ハラスメント防止のためのガイドライン（PDF）
 - ④学校法人郡山開成学園ハラスメント防止委員会規程（PDF）
 - ⑤苦情相談から問題解決までのフローチャート（PDF）



第 6 回食物栄養学科セミナー：「ホルモンの分泌調節について ～下垂体中葉のメラニン色素細胞刺激ホルモンを中心として～」

ホルモンの分泌調節について、カエル下垂体中葉（中間部）を用いた実験とその結果を紹介する。

中葉から分泌されるホルモンはメラニン色素細胞刺激ホルモン（カエルではメラニン色素細胞刺激ホルモン＝MSH、melanophore-stimulating hormone）で、カエルの皮膚色を背景に順応させて、保護色を作ることによって知られている。下垂体中葉は視床下部からの神経により直接支配を受け、その支配は分泌抑制によることは分かっていたが、それ以外の機構については不明でした。

最初の研究では、カエル下垂体中葉を前眼房に移植する実験により、自己の中葉と他の個体から移植された眼房内中葉は相互に分泌抑制をかけていること、即ち mass action-type（autocrine に相当）が存在することを示す。MSH 定量のバイオアッセイ法と電子顕微鏡での形態観察を呈示する。

次に、中葉を前眼房内に移植して長期間（3-4 ヶ月）経過すると、カエルの皮膚色は真っ黒から明化してくる。この時に眼房内中葉細胞を電子顕微鏡で観察すると、MSH 顆粒の生成と分泌が旺盛な細胞に混じって、分泌顆粒を充満しているものが観察される。その細胞には新たに神経終末が形成され、MSH の分泌を抑制していた。この神経は形態学的にはカテコールアミン（ノルアドレナリン）含有神経と考えられ、虹彩に分布する神経が眼房内中葉に分布したと考えられる。

更に、視床下部の MSH 分泌抑制神経の起始細胞はどこにあるかを追究した。その起始細胞は視交叉背側領域に位置するドーパミンニューロン（同時に GABA も含有する）であるが、この結果を求めるために用いた技法（アミン蛍光法、逆行性標識法、免疫組織化学法など）を紹介しながら、起始細胞を同定したことを解説する。

■ 主催

大学 食物栄養学科

■ 日程

平成 27 年 11 月 18 日（水） 16:10～17:40

■ 会場

創学館 2 階 521 教室 参加者数：23 名（大学：17 名、短大：4 名、事務局：2 名）

■ 講師

西山慶治先生（大学食物栄養学科 教授）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 下垂体中葉の MSH の分泌調節には抑制神経による直接支配と mass action-type が存在する
- (2) 眼房内移植された中葉細胞には異所性に神経分布が形成されて MSH の分泌を抑制する
- (3) 中葉支配の抑制神経の起始細胞は視交叉背側の視交叉上野に存在する



マイナンバー制度の概要と事務処理上の対応について

平成 25 年（2013 年）5 月、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」（通称、マイナンバー法）が公布され、平成 28 年（2016 年）1 月から個人番号（マイナンバー）の利用が開始され、学校を含む民間事業者は従業員等から個人番号の提供を受けて個人番号を記載した書類の作成事務が発生してくる。事務局、学科等に関する事務処理上の対応について説明を行った。

■ 主催

学園教育充実研究会（SD 部門）

■ 日程

平成 27 年 12 月 3 日(木) 14:30 ～ 15:30

■ 会場

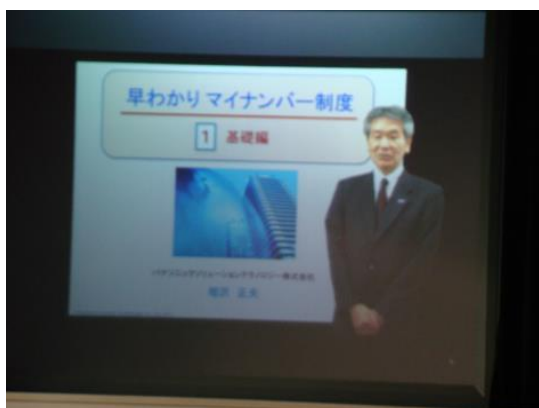
創学館 2 階 521 講義室

■ 講師

加瀬 洋氏（郡山開成学園 事務局 総務部長代行）

■ 実施内容 参加者 50 名

- (1) マイナンバー制度の概要（ビデオ視聴）
 - ・「早わかりマイナンバー制度①」基礎編
- (2) マイナンバー事務処理上の対応について
 - ・非常勤教職員のマイナンバー提出について
 - ・講演を依頼した講師へのマイナンバー提出の依頼
 - 「報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書」の作成に関して



平成 27 年度障がい学生支援研修会：「大学における障害学生支援のあり方 ～障害者差別解消法に向けて必要なこと～」

障害者差別解消法が来年度 4 月より施行されます。それに伴い、私立大学では文部科学省が示す「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」（いわゆる「対応指針」）に沿った対応が求められることになります。

具体的に何をどこまでしなければならないのか、障害者差別解消法や内閣府から示された「基本方針」、文科省が示した「対応指針」を示しながら、それらの背景となる考え方について紐解いていきます。

■ 主催

障がい学生支援委員会・学生生活部

■ 日程

平成 27 年 12 月 4 日（金） 14:30～16:00 [46 名参加]

■ 会場

創学館 2 階 521 教室

■ 講師

金澤貴之先生（群馬大学教育学部 教授）

■ 実施内容（配布資料より抜粋）

- (1) 障害学生支援の過去～現在
- (2) 障害学生支援を牽引してきた聴覚障害・聴覚障害学生および発達障害学生支援の難しさ
- (3) 障害者基本法・障害者差別解消法・郡山市手話言語条例・障害者雇用促進法・文科省の対応指針
- (4) 組織的支援の必要性和課題
- (5) 群馬大学の支援例



IR 研修会 1ーデータの収集編

IR (Institutional Research) とは、大学等が学生や教職員に関わる統計的なデータを分析し、組織の発展に生かす活動のことである。本学では、IR は未だ萌芽的な段階にあるといえる。ただし、この数年で、各種のアンケート調査が普及した点は望ましい傾向であろう。まずは、こうしたアンケート調査をさらに普及・促進していくことが本学の IR 活動の第一歩となるだろう。本研修では、アンケート調査の実施・分析方法の基本的な手順を解説する。また、発展的な内容として、近年、急速に普及しつつある web (スマートフォン) を用いたアンケート調査の実施方法の紹介、また実際の作成演習を行う。参加対象者としては、各部署・学科のアンケート調査担当者、また、その結果の活用に関わる教職員を想定している。

■ 主催

自己点検・評価委員会

■ 日程

平成 28 年 2 月 3 日(水) 12:50~14:20

■ 会場

531 教室

■ 講師

垣花 真一郎先生 (大学 人間生活学科/自己点検・評価委員会)

■ 実施内容

- (1) IR とは
- (2) 調査の種類と留意点
- (3) アンケート調査の構成
- (4) 質問項目の作り方
- (5) Web によるアンケート
- (6) 分析の方法



IR 研修会 2ー他大学の取り組み例と本学の分析事例の紹介

IR (Institutional Research) とは、大学等が学生や教職員に関わる統計的なデータを分析し、組織の発展に生かす活動のことである。本学では、IR は未だ萌芽的な段階にあるといえる。本研修では、既存のデータを用いてできる簡単な分析事例を紹介する。用いるデータとしては、授業評価アンケート、学生生活アンケート、退学率などである。これらは、従来から集計結果が公開されてきたものであるが、大学・短大間を比較したり、経年変化を観察したりするだけでも、新たな発見をすることができることを示す。また、他大学での IR データの活用事例や、IR の実施体制を紹介し、本学で、今後どのように IR 活動を実施していくかのモデルを提示する。参加対象者としては、各部局の管理運営責任者、アンケート調査や成績データ等の活用に関心のある教職員を想定している。

■ 主催

自己点検・評価委員会

■ 日程

平成 28 年 2 月 8 日(月) 12:50～14:20

■ 会場

531 教室

■ 講師

垣花 真一郎先生 (大学 人間生活学科／自己点検・評価委員会)

■ 実施内容

- (1) IR とは
- (2) 他大の状況
- (3) 本学の現状
- (4) 既存データの分析



その戦略を意識しよう！ ～アクティブラーニングのしかけ～

2012年8月の中教審答申の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」で、学士教育課程におけるアクティブラーニングの積極的な導入が求められた。高校までの勉強から大学教育の本質である主体的な学修へと跳躍すべく、学生同士が刺激を受け合いながら成長することができるよう、課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）といった、学生の思考や表現を引き出す、双方向の授業を中心とした質の高い教育の必要性が求められている。本研修会はそういったアクティブラーニングに関しての、他大学の取り組みについての講演を行った。演者は2011年の震災直後から、桜の聖母短期大学において「福島学」を立ち上げ、学生と一体となり学生の能動的学修を引き出し、グループディスカッション、ディベート、グループワークを実践し、アクティブラーニングを体現しながら地域との連携を模索した。学生が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図った、アクティブラーニングの具体的な学修内容を紹介する。

■ 主催

学園教育充実研究会

■ 日程

平成28年2月18日(木)12:50～14:20

■ 会場

芸術館大教室

■ 講師

三瓶千香子先生（桜の聖母短期大学キャリア教養学科准教授、生涯学習センター長）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 「福島学」の取り組み
- (2) 「私ならこうする！ 私ならこれができる！」という人材の育成
- (3) アクティブラーニングの定義・目的・内容
- (4) アクティブラーニングの一例
- (5) ルーブリックについて



第7回食物栄養学科セミナー：「精神科における外来栄養指導の成果に影響を与える要因について」

現在、平成25年精神保健福祉法改正に伴い厚労省が進めている「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」においては精神科病床数を減少させ、精神障害を持ちながら彼らが地域で生活できるよう、支援体制を構築していこうとしている。精神科病床数の減少については10年以上前から進められていたが、今回は地域で生活できるように更なる他職種連携、アウトリーチに力を注ぐとしている。それを受けて各県、各病院、各職域において勉強会とさまざまな試みがなされているところである。精神科における栄養指導では、入院している時は食事がコントロールされていて安定していても、退院後自由に食事選択ができるようになると均衡を保てなくなる方が多く、精神科に勤める栄養士の悩みとなっている。今回は、栄養指導の成果に影響を与える要因について紹介し、栄養指導に有効なツールづくりの取り組みについて報告する。

■ 主催

大学 食物栄養学科

■ 日程

平成28年2月23日(火) 16:10～17:40

■ 会場

臨床栄養実習室

■ 講師

岡部聡子先生 (大学食物栄養学科 准教授)

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 我が国の精神科医療の歴史
- (2) 地域医療の担い手としての精神科クリニックの役割～多機能型診療所とは～
- (3) 精神科外来指導における食行動に影響を与える心理的側面の評価尺度を用いての研究調査の概要
- (4) 今後の精神科における外来栄養指導での DEBQ(The Dutch Eating Behavior Questionnaire)の活用について
- (5) 今後新たに試みること～日本語版 DEBQ の開発に向けて～



平成 27 年度 第 2 回アドバイザー業務研修会「コーチング その技術と実践 2 質問力とコミュニケーションスタイル」

コーチングとは、コーチとして専門的教育を受けたコーチとクライアントと呼ばれる個人（またはチーム）が目標を設定し、コーチがクライアントとのコミュニケーションを通じて、質問や提案をすることによってクライアントの行動を促し、成果を達成するというパートナーシップである。平成 26 年度第 2 回アドバイザー業務研修会では、「コーチング～その技術と実践～」のテーマで、「聴く」「質問する」「承認する」「要望する」「フィードバックする」という基本的なコーチングスキルの中の「聴く」を中心に学んだ。2 回目となる今年度は、前回の研修会で学んだコーチングの基本スキルのひとつである「質問力」について学ぶと共に、相手のコミュニケーションスタイルを見分け、それに合わせたコミュニケーションのバリエーションを広げることで、対話力をアップさせることを学んだ。

■ 主催

学生生活委員会、教養・キャリア教育委員会

■ 日程

平成 28 年 3 月 1 日（火） 13:00-15:00 [30 名参加]

■ 会場

83 年館 832 教室

■ 講師

木須八重子 先生（公益財団法人 せんだい男女共同参画財団 理事長）

■ 実施内容

- (1) 平成 26 年度第 2 回アドバイザー業務研修会『コーチング～その技術と実践～』の振り返り
- (2) 『コーチング～その技術と実践 2～』質問力とコミュニケーションスタイルについての講義
- (3) コーチングフローを使ったエクササイズ（二人一組で実施）
- (4) まとめと質疑応答

■ 関係資料

①研修会レジメ

②資料 1 「平成 26 年度第 2 回アドバイザー業務研修会『コーチング～その技術と実践～』 レジメ要約版

③資料 2 『自分のコミュニケーションスタイルを知る』

（事前に各自が資料 2 を実施し、自分のコミュニケーションスタイルを確認した上で参加した）

④資料 3 『相手のコミュニケーションスタイルを見分ける』



講義風景



コーチングフローを使ったエクササイズ風景

5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては、学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

総務部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成 27 年度 大学・短期大学評価セミナー	公益財団法人 日本高等教育評価機構	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
2	平成 27 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
3	公益財団法人 私立大学交付率改正説明会	公益財団法人 私立大学退職金財団	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
4	シンポジウム「大学のガバナンス改革と職員の役割」	大学行政管理学会	青山学院大学（東京都渋谷区）
5	平成 27 年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	独立行政法人 日本学術振興会	福島グリーンパレス（福島市）
6	「マイナンバー制度と実務対応」研修会	私大職員研修センター	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
7	平成 28 年度 第三者評価 ALO 対象説明会	一般財団法人 短期大学基準協会	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
8	平成 27 年度 事務研修会	日本私立大学協会東北支部	グランドサンピア八戸（青森県八戸市）
9	平成 28 年度 大学・短期大学機関別認証評価説明会	公益財団法人 日本高等教育評価機構	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
10	私学実務者セミナー 給与システムのマイナンバー対応について	グレースシティ株式会社	（東京都秋葉原）
11	大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省高等教育局	メルパルク東京（東京都港区）
12	平成 27 年度 学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省	品川きゅりあん（東京都品川区）
13	私学経営研究会セミナー「総額人件費管理と要員適性化策」	公益社団法人 私学経営研究会	東京ガーデンパレス（東京都文京区）

経理部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成27年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
2	平成27年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	独立社団法人 日本学術振興会	福島グリーンパレス（福島市）
3	平成27年度 私立短大経理事務等研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	ホテルオークラ新潟（新潟市）
4	レーザー学校会計 ver9.0 決算操作セミナー	グレースィティ株式会社	TKP 仙台西口ビジネスセンター(仙台市)
5	私学経営研究会セミナー「総額人件費管理と要員適性化策」	公益社団法人 私学経営研究会	東京ガーデンパレス（東京都文京区）

管財部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成27年度 私立大学等経常費補助金説明会（入門者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
2	平成27年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
3	平成27年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	独立行政法人 日本学術振興会	福島グリーンパレス（福島市）
4	第6回「震災対策技術展」宮城	「震災対策技術展」宮城事務所他	AERビル（仙台市）
5	eco 検定アワード2015 表彰式	東京商工会議所	東京商工会議所ビル（東京都千代田区）
6	平成27年度 学校等における省エネルギー対策に関する講習会	文部科学省大臣官房文教施設企画部	東京医科歯科大学（東京都文京区）
7	東北地区エコアクション21認証・登録制度11周年記念事業表彰式	エコアクション22 地域事務局「環境ネットやまがた」「銀河」	ホテル法華クラブ仙台（宮城県仙台市）
8	第19回 環境コミュニケーション大賞表彰式	環境省（財）地球・人間環境フォーラム	品川プリンスホテル（東京都品川区）
9	サステイナブルキャンパス認定証交付式出席並びに取組内容の発表	サステイナブル推進協議会	京都大学国際科学イノベーション棟（京都府）

入学事務・広報部

	件 名	主 催 者	場 所
1	マイナビ データベースマーケティングセミナー	株式会社マイナビ	株式会社マイナビ東北支社
2	私大職員のための大学におけるマーケティングと広報募集の実践講座	私大職員研修センター	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
3	平成 26 年度 大学入学者選抜・教務関係等事項連絡協議会	文部科学省高等教育局 大学振興課	日比谷公会堂
4	進研アド「BETWEEN セミナー」	進研アド株式会社 東北支社	TKP ガーデンシティ仙台（仙台市）
5	大学募集戦略セミナー	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 進学事業本部	トラストシティカンファレンス仙台（仙台市）
6	大学広報特別セミナー	株式会社さんぽう	新宿文化センター（東京都新宿区）
7	総務広報担当者のためのマスメディアの基本知識と実践的対応講座	私大職員研修センター	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
8	大学学生募集広報セミナー	株式会社進研アド	TKP ガーデンシティ仙台勾当台（仙台市）

教務部

	件 名	主 催 者	場 所
1	第 6 回 教育 IT ソリューション EXPO 展示会	リード エグジビション ジャパン株式会社	東京ビッグサイト（東京都江東区）
2	平成 27 年度 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省高等教育局 大学振興課	日比谷公会堂
3	平成 27 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
4	平成 27 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
5	平成 28 年度 大学入学者選抜入試センター試験福島県連絡会議	大学入試センター試験 福島県連絡会議 世話 大学 福島大学	福島大学（福島市）

6	平成27年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	独立行政法人 日本学術振興会	福島グリーンパレス（福島市）
7	平成28年度 大学入学者選抜入試センター試験担当者連絡協議会（第1回目）	独立行政法人 大学入試センター	メルパルク東京（東京都港区）
8	平成27年度 事務研修会	日本私立大学協会東北支部	グランドサンピア八戸（青森県八戸市）
9	平成27年度 科学研究費助成事業公募要領等説明会	文部科学省研究振興局 学術研究助成課	岩手大学（岩手県盛岡市）
10	平成27年度 大学教務部課長担当者研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	オークラアクトシティホテル浜松（静岡県浜松市）
11	平成27年度 私立短大教務担当者研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	ホテルオークラ新潟（新潟市）
12	平成28年度 大学入学者選抜入試センター試験担当者連絡協議会（第2回目）	独立行政法人 大学入試センター	東北大学百周年記念会館 川内萩ホール（宮城県仙台市）
13	大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省高等教育局	メルパルク東京（東京都港区）
14	学位規則6条第1項の規定に基づく学士の学位の授与に係る特例に関する説明会	独立行政法人 大学評価・学位授与機構	学術総合センタービル（東京都千代田区）

学生生活部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成27年度 学生教育研究災害障害保険説明会	公益財団法人 日本国際教育支援協会	仙台東京海上日動ビル（仙台市）
2	平成27年度 日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	独立行政法人 日本学生支援機構	パレスへいあん（仙台市）

就職部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成27年度 第1回企業と学校による人材情報交換会	栃木県産業労働観光部労働政策課	ホテル東日本宇都宮（宇都宮市）

2	平成 27 年度 東北地区私立短期大学就職指導研究会	東北地区私立短期大学就職指導研究会	海扇閣（青森県青森市）
3	平成 27 年度 東北地区私立大学就職問題協議会	東北地区私立大学就職問題協議会	石巻専修大学（石巻市） ホテル松島大観荘
4	各養成校との懇談会出席	一般社団法人 宮城県私立幼稚園連合会	仙台ガーデンパレス（仙台市）
5	東北地区私立大学合同就職セミナー	東北地区私立大学就職問題協議会	仙台サンプラザホール（仙台市）
6	平成 27 年度 就職部課長担当者研修会	日本私立大学協会 就職委員会	オークラアクトシティホテル浜松（静岡県浜松市）

図書館

	件 名	主 催 者	場 所
1	2015 年度 私立大学図書館協会東地区部会総会及び関連諸会議	私立大学図書館協会東地区部会	東北学院大学（仙台市）
2	第 32 回 福島県内大学図書館連絡協議会総会	福島県内大学図書館連絡協議会	福島県立図書館
3	第 70 回 東北地区大学図書館連絡協議会総会	東北地区大学図書館連絡協議会	宮城教育大学
4	全国大学ビブリオバトル首都決戦 2015 福島地区決戦	桜の聖母短期大学	桜の聖母短期大学

高校事務室

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成 27 年度 第 42 回福島県私学教育研修会	福島県私立中学高等学校協会	ザ・セレクトン福島（福島市）
2	平成 27 年度 第 26 回研修会	福島県私立中高保護者会	華の湯（郡山市）
3	平成 27 年度 私立学校事務説明会	福島県総務部私学・法人課	チェンバおもまち（福島市）

幼稚園事務室

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成 27 年度 学校運営管理研修会について	公益社団法人 福島県私立幼稚園連合会	ホテル福島グリーンパレス（福島市太田町）

学園教育充実研究会（SD 部門）

	件 名	主 催 者	場 所
1	大学マネジメント研修	福島大学	福島大学（福島市）

家庭寮

該当無し

平成 27 年度 学園教育充実研究会（大学・短大部門）

部 門	名 前	所 属
FD 部門	垣花 真一郎（委員長）	家政学部 人間生活学科
	鍬野 信子	家政学部 食物栄養学科
	磯部 哲夫	短期大学部 音楽科
	松田 理香	短期大学部 生活芸術科
	郡司 尚子	家政学部 食物栄養学科
	泉 秀生	家政学部 人間生活学科
SD 部門	横田 英隆	経理部
	加瀬 洋	総務部
	高橋 一	経理部
	鈴木 美由紀	学生生活部
	安齋 文明	管財部
	村田 菜織	高校事務室
事務担当	安藤 岐恵	教務部
	池田 理咲子	教務部